

両国交兵、不斬来使

参議院議員
客員相談役

藤井基之



三国志は、今から一八〇〇年前、西暦二世紀から三世紀にかけて、中国の後漢の末期から魏、呉、蜀の三つの国が覇権を争った時代の物語ですが、その主人公の一人に、蜀の国を起こして、初代皇帝となった劉備という人がいます。劉備は、呉の初代皇帝となる孫権と同盟を結んで、魏の武帝となる曹操と戦い、曹操を撃破します。この戦い、**赤壁の戦い**と呼ばれ、**レッドクリフ**、という映画でおなじみですね。

しかし、その後、劉備と孫権は、領土の分配を巡って仲たがいに、両者の間で戦いが始まります。その戦いの中で、劉備の腹心であった関羽、張飛が呉に殺害されてしまいます。これに怒った劉備は、孫権の呉軍と、夷陵というところで戦いました。しかし、孫権が劉備の軍を大破し、しばらく後、失意

のうちに劉備はこの世を去ります。

ところで、この夷陵の戦いの際、次のようなエピソードがあったと伝えられています。夷陵の戦いで、孫権は劉備の蜀軍に勝利し、争っていた領土を確保した後、劉備と和睦するため諸葛瑾という人を使者に出しました。劉備は、関羽と張飛を殺害した呉を恨んでおり、それが夷陵の戦いを起こした原因の一つでもあったのですから、全ての呉の民を殺したいと思っていました。しかし、劉備は、使者である諸葛瑾を殺さずに追返ししました。当時、諸国の間には「両国交兵、不斬来使」、つまり、「たとえ戦闘中の敵の使者であっても、これを殺さない」という礼儀があり、劉備はこれを守ったのだそうです。

さて、話は変わりますが、今年の七

月、我が国の領土である尖閣列島に、香港などの中国人十四人が乗った船が日本の領海内に侵入し、うち七人が尖閣列島に不法上陸、逮捕されるといふ事件が発生しました。逮捕された七人は詳しい取り調べをうけることもなく、強制送還されましたが、この事件を巡って、中国国内では、ネットや街頭デモで、**反日旋風**が吹き荒れました。そして、八月二十七日には、丹羽日本大使の乗った公用車が、数人の男に襲われ、国旗を持ち去られるという事件が発生しました。

この大使公用車の襲撃事件を巡っても中国のネットでは、「よくやった」と英雄扱い、反日のコメントが飛び交ったようですが、中に、次のような意見も現れたそうです。

『両国交兵、不斬来使』と昔から言

われる。バカなことをしでかした奴らは、国の面倒になることをわざわざするな！これは愛国とは言わない、おつむが足りないって言うんだ。」

中国は今、経済成長期の真つただ中にあり、国民の間の経済格差が大きくなり、これに不満を持つ若い人たちが増え、それが**反日**の形で現れていると言われていますが、こうした理性派もいるのですね。

八月二十五日、外務省は、「尖閣諸島の領有権の基本見解」を発表しました。ポイントを拾ってみますと、
1. 尖閣諸島は、無人島であるのみならず、清国の支配が及んでいる

痕跡がないことを慎重確認の上、一八九五年一月十四日に現地に標杭を建設する旨の閣議決定を行なって正式にわが国の領土に編入することとしたもの。

2. サン・フランシスコ平和条約において、尖閣諸島は、同条約第二条に基づきわが国が放棄した領土のうちには含まれず、第三条に基づき南西諸島の一部としてアメリカ合衆国の施政下に置かれ、一九七一年六月十七日署名の琉球諸島及び大東諸島に関する日本国とアメリカ合衆国との間の協定（沖縄返還協定）によりわが国に施政

権が返還された地域の中に含まれている。

3. 中国が尖閣諸島を台湾の一部と考えていなかったことは、サン・フランシスコ平和条約第三条に基づき米国の施政下に置かれた地域に同諸島が含まれている事実に対し従来何等異議を唱えなかったことから明らかである。

内政ばかりでなく、北方領土、尖閣諸島、竹島、普天間基地移転問題など、外交でも失態続きの政府。国民の不満は、限界にきています。

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

<http://www.mfujii.gr.jp/>

- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

- 活動報告
参議院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

- 経歴
昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事
平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
平成13年 参議院議員(1期目)
平成16年 厚生労働大臣政務官(平成16年9月~平成17年11月)
平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
平成22年 参議院議員(2期目)
平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長

- その他
慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師